

令和元年度 林業成長産業化構想技術者育成研修 (中部ブロック研修)

林野庁では森林総合監理士の育成にあたって、林業の成長化の実現に向け、素材生産の効率化や再造林等の低コスト化など、効率的な生産システムの念頭においた路網計画を主に、必要な最新技術を学び、森林の施業から木材の流通までを考慮した総合的な森づくり構想の作成に資する技術的知見を生かせる技術者の育成を行うため、全国6ブロックで実施しました。

中部ブロックでは11月12日から15日の4日間、岐阜県下呂市及び加茂郡七宗町(現地研修)において、県職員6名、民間職員1名、国有林職員3名の10名が参加し実施しました。

研修は、約1,000haの演習地について、森づくり構想を念頭に近隣の林業事業体、木材加工・流通情報を踏まえた10年間の路網計画、搬出・販売計画を検討し発表するカリキュラムです。路網の検討にあたっては、路網設計支援ソフトを使用して路網整備の促進を図るもので、航空レーザー計測等で得られた地形データを基に林道などの路網を机上で設計し、現地確認等により修正を行う内容となっています。

この研修により、木材生産基盤整備のための高度技術者等を育成し、生産性の向上、施業の低コスト化、資源の循環利用促進により、林業の成長産業化の一翼を担う人材を育成します。

【1日目】開講式の後、「森林資源把握・路網配置計画演習」では、GISデータ及び図面で演習対象地の森林現況及び地形の把握を行い、森林及び路網の整備計画と大局的に検討する視点を養う。



路網配置の検討(1班)



路網配置の検討(2班)

【2日目】演習地(七宗国有林)へ移動し、「地域特性に応じた森づくりの構想」、「森づくり検討/森林現況の把握・路網配置の調査」では、机上演習で検討した演習地(現地)を眺望して、資源量や地形・地質、周囲の土地利用を現地で確認することを通じて、路網計画や森林整備計画を再構築する。



外部講師(森づくり構想)
横井 氏



施業の検討



意見交換



チャート(珪岩)の説明



遠望による確認



林道取付確認

【3日目】「森林資源利用構想演習」では、机上演習と現地実習の結果を踏まえて、路網整備・森林整備の計画を含めた林業成長産業化に資する地域構想を作成。路網計画が市町村森林整備計画上のゾーニングや更新方法と整合が取れ、計画的な路網整備を行うための視点を養う。



前日の現地調査を踏まえ、路網の検討



【4日目】【発表、ディスカッション、講評】、閉校式
各班演習の発表とディスカッションを通じて、構想の実現に向けた開発構想と地域の利害関係者との合意形成に必要なプレゼンテーション・コミュニケーション能力の向上を図る。



発表(1班)



発表(2班)



講評(中村 氏)



講評(寺岡 氏)

